

99-165

問題文

抗悪性腫瘍薬に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. メルカプトブリンは、生体内でチオイノシン酸に変換され、アデニル酸及びグアニル酸の生合成を阻害する。
2. ビンクリスチンは、DNAをアルキル化し、がん細胞のS期移行を阻害する。
3. ゲムシタビンは、生体内でリン酸化され、DNAトポイソメラーゼIIを阻害する。
4. タモキシフェンは、エストロゲン受容体を遮断し、乳がん細胞の増殖を阻害する。
5. トラスツズマブは、CD20抗原を有する細胞を補体依存的に傷害する。

解答

1, 4

解説

選択肢 1 は、正しい記述です。

選択肢 2 ですが

ビンクリスチン（オンコピン）は、微小管の機能を阻害する植物アルカロイド系の抗がん剤です。アルキル化剤では、ありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

ゲムシタビン（ジェムザール）は、DNA 鎖に取り込まれることで DNA 合成を阻害する抗がん薬です。トポイソメラーゼ阻害薬では、ありません。よって、選択肢 3 は誤りです。ちなみに、トポイソメラーゼ阻害薬の例はエトポシドです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

選択肢 5 ですが

トラスツズマブ（ハーセプチン）は、がん細胞表面タンパク質 HER 2 に対する分子標的薬です。CD 20 が標的では、ありません。CD 20 が標的であるのはリツキシマブ（リツキサン）です。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 1,4 です。